

2020 年度(令和2年度)学校評価自己評価表

| | | |
|--------|-------|-----------------|
| 精華中学校区 | 校番 34 | 福山市立金江小学校 |
| 最終更新日 | | 2020年(令和2年)4月1日 |

I 福山市

| | |
|-------|--|
| ミッション | 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。 |
| ビジョン | 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。 |

II 中学校区

| | |
|---|---|
| 前年度学校関係者評価の主な内容 | 児童生徒の現状 |
| <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒は素直で、ボランティアや地域の行事にも積極的に参加し、社会に貢献している。 学校・保護者・地域が互いに連携協力できるように、各学校から行事・参観日等の予定を伝える。 | <ul style="list-style-type: none"> 規範意識は高く、言われたことに対して守ろうとする。 自己表現力が弱く、自分の考えを分かりやすく話したり書いたりすることに課題がある。 地域とのかかわりが強く、中学校区に対する愛着は強い。 |

| 育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) | 創造性 | 批判的思考・問題解決・意思決定 | 耐える力 |
|---------------------------|--|--|--|
| めざす子ども像 (義務教育終了時の姿) | 生活や社会をよりよくするための課題を見つけ、既習事項を活用して、自分の考えや意見を表現している。 | 生活や社会をよりよくするため、様々な情報を多面的・多角的な見方で分析し、課題を適切な方法で解決している。 | よりよい生活や社会の実現に向けた目標を定め、その達成のために、粘り強く工夫し、他者に配慮しながら、多様性を尊重し協働して学び続けている。 |
| 中学校区として統一した取組等 | 自分の考えを、話す・書く等で表現させる。 | 根拠を持って考えを表現させる。 | 相手の立場を思いやりながら、目標を決めて、最後までやり遂げようとする。 |

III 自校

| |
|-------------------------------------|
| ミッション |
| 地域に貢献する 自立した子どもの育成 ～主体的に学ぶ授業の実現～ |
| 学校教育目標 |
| 共に高まる たくましい子の育成 |

| 育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) | 創造性 | 批判的思考・問題解決・意思決定 | 耐える力 | |
|---------------------------|------|--|---|--|
| めざす子ども像 | 1～4年 | 日常生活をよりよくするために、自分の考えを持ち、話したり書いたりして表現している。 | 日常生活をよくするために、生活体験などの情報を生かし、自分なりの理由を付けて課題を解決している。 | 思いやりの心を持ち、目標を達成するために、協力し合い、粘り強く努力している。 |
| | 5・6年 | 日常生活や地域社会をよりよくするために、既習事項を活用して、自分の考えや意見を話す・書くなどで表現している。 | 日常生活や地域社会をよりよくするために、様々な情報の中から課題に応じた情報を選択し、根拠をもって解決している。 | 誰に対しても思いやりの心を持ち、より高い目標を達成するために、相手の立場や考えを尊重しながら、粘り強く取り組み、やりぬいている。 |

| |
|---|
| 現状 |
| <p><児童生徒>スキル倫理観の観点</p> <p>自分がすべきことは、理解しているが、周りとの関係を気にして、みんなに合わせて行動しようという考えに流され、自分の考えをはっきりと表現することは苦手だと感じる児童もいる。正しいと考えたことを、最後まで粘り強くやりぬく意識や態度を育てる必要がある。</p> <p><授業>授業アクションプランから</p> <p>児童と共に単元計画を立て、単元を貫く課題を設定することは、児童が考えをもつ手がかりとなった。児童が互いに根拠や理由を問う場面、全体交流後の概念化・一般化が不十分であった。「主体的な学び」を共通認識し、児童と共に学びを創るという教師の姿勢が必要である。</p> |

| | | |
|--------------------------|---|--|
| 研究 | 教科等 | 生活科・社会科・総合的な学習の時間 |
| | 主題・内容等 | 主体的に課題を追究し、共に高まる子どもをめざして ～「子どもたちに任せること」と「教師の見取り力の向上」～ |
| めざす授業の姿 アクションプランと合わせる | <ul style="list-style-type: none"> ○「児童と共に単元計画を立てる」ことで、児童に任せる部分と児童が身につけるべき力についてはっきりさせて進める授業。 ○授業の振り返りや学びの姿の分析を通して、教師が児童の学びを見取り、支援できる授業。 | |

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立金江小学校

| 年目 | 中期経営目標 | 重点分類 | 短期経営目標 | 目標達成に向けた取組 | 評価指標 | 中間評価(10月1日) | | | | 最終評価(2月末) | | | |
|----|-------------|------|-----------------------------|--|---|-------------|---------|------|------|--------------------------------|---------|------|------|
| | | | | | | □指標に係る取組状況 | 70%以上評価 | 達成評価 | 改善方策 | □指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況 | 70%以上評価 | 達成評価 | 総合評価 |
| 1 | 主体的で深い学び | ★ 継続 | 自分の考えをもち、かかわりの中で考えを深める児童の育成 | <ul style="list-style-type: none"> 単元を貫く課題の設定や、付けたい力を明確にした授業展開をするための単元計画づくりや教材研究をする。 児童が主体的に学んでいる姿を交流し、教師の見取り力を向上する。 | <ul style="list-style-type: none"> 児童と共に単元計画を立てて進める授業実践を各学年学期に1回以上行う。 授業の振り返りで出された児童の考えを分析したり、児童が主体的に学んでいる姿について交流したりする。(月に2回) | | | | | | | | |
| | | | 読書活動を楽しむ児童の育成 | <ul style="list-style-type: none"> 本に親しませ、お気に入りの本を紹介する場をつくる。(読書郵便の活用) | <ul style="list-style-type: none"> 読書郵便…校区の学校へおすすめの本を1冊紹介する。 学校内で、おすすめの本を紹介する。(学期に一回) 紹介された本を3冊以上読む児童を80%以上にする。 | | | | | | | | |
| 2 | 自ら考え判断し行動する | 継続 | 人を思いやり、粘り強く努力する児童の育成 | <ul style="list-style-type: none"> 毎週の振り返りを大切に ①思いやりのある行動 ②粘り強く最後までやりぬく | <ul style="list-style-type: none"> 毎月の振り返りで「思いやりのある行動がとれた、してもらった」児童をそれぞれ85%以上にする。 振り返りに「最後まであきらめずに頑張ったこと」「途中までになってしまったわけ」も記録していく。 | | | | | | | | |
| 3 | 働き方改革 | 継続 | 教職員の笑顔と元気をつくる | <ul style="list-style-type: none"> 校務支援員の活用の工夫をする。 放課後の時間の使い方を交流していく。 | <ul style="list-style-type: none"> 1か月の時間外勤務が4.5時間を超える職員を0名にする。 | | | | | | | | |

[プロセス評価の評価基準]

[達成評価の評価基準]

[総合評価の評価基準]

| 評点 | 評価基準 |
|----|--|
| 5 | 取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。 |
| 4 | 取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。 |
| 3 | 取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。 |
| 2 | 取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。 |
| 1 | 取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。 |

| 評点 | 評価基準 |
|----|------------------------|
| 5 | 目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。 |
| 4 | 目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。 |
| 3 | 目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。 |
| 2 | 目標を下回り、成果よりも課題が多かった。 |
| 1 | 目標を大きく下回り、成果が認められなかった。 |

| 評点 | 評価基準 | |
|----|-----------------|-----------------|
| 5 | 100%以上の達成度 | 十分に目標を達成できた。 |
| 4 | 80%以上100%未満の達成度 | 概ね目標を達成できた。 |
| 3 | 60%以上80%未満の達成度 | ある程度目標を達成できた。 |
| 2 | 40%以上60%未満の達成度 | あまり目標を達成できなかった。 |
| 1 | 40%未満の達成度 | 目標を達成できなかった。 |